

第8回 生駒市バリアフリー基本構想推進協議会会議録（要旨）

日 時 令和6年3月21日（木）14時00分から15時10分

場 所 生駒市役所 大会議室

出席者 （敬称略）

波床正敏、伊藤竹男、藤田照子、坂本剛伸、佐々木達也、大橋進、大原暁、
阪中樹、畑弘治、水瀬剛史、吉川悠哉、植谷秀夫、前川昌広、川島健司、
吉村智恵、米田尚起、北田守一、鎌田明年、八重史子

（事務局）谷事業計画課長、山本課長補佐、林係員、白川係員

会議の公開・非公開の別 公開

傍聴者数 7人

議 事

1. 開会

2. 協議事項

(1)生駒市バリアフリー特定事業計画 各事業の進捗共有について

(2)跨線横断歩道橋の整備事業について

3. その他

4. 閉会

配布資料

・次第

・資料

1. 開会

2. 協議事項

(1)生駒市バリアフリー特定事業計画 各事業の進捗共有について

○地下通路等について

生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- ・ 南生駒駅の東西間移動について、駅東西の地上部に改札口ができた際、構外の地下通路は廃止の意向であるが、構内の地下通路に関しては誤乗防止やトイレ利用の利便性、安全性等のバランスに配慮し、設計のなかで検討するとあったが、どのように考えているのか。
- ・ 昨年 6 月頃から南生駒駅の地下改札前でポスターの掲出により駅東西の移動経路の進捗や絵を説明しており、利用者の方も関心を持っていると思う。これについて、事業の進捗状況や駅内部のバリアフリー化の情報も含めた更新と見やすさに配慮し、少し大きくしていただけたらと思う。

事務局

- ・ 現在、南生駒駅構外の地下通路（改札口前）にバリアフリー化事業の内容や今後の予定等を記載したものを掲出している。大きさについては確認のうえ検討する。内容に関しても新しい情報を知っていただけるのが良いと思うので、詳細設計業務の進捗に併せて更新することを検討したい。

近畿日本鉄道株式会社 阪中氏

- ・ 駅構内の地下通路を廃止するか否かについて、生駒市が検討している跨線橋の計画と併せての計画になるため、残すことを断言することはできないが、トイレの利用等に配慮し引き続き検討したい。

生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- ・ 仮に残すとなれば、現行の地下改札口の場所で壁か何かで仕切ることになるのか。

近畿日本鉄道株式会社 阪中氏

- ・ 壁になるか否かは回答しかねるが、別の駅では鉄の柵のようなもので仕切っているところもあるので、そのような対応になる可能性もあると現状では考えている。

生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- ・ 緊急時の対応だけでなく、トイレを利用するのに 1 度改札の外へ出て跨線橋を渡ってという動線にならない方が良いと考えるため残すことを願います。

公募市民 畑氏

- ・ 構内の地下通路を残す際、身障者用のスロープの設置等は考えているのか。

近畿日本鉄道株式会社 阪中氏

- ・ 構内の地下通路について、スロープ等を設置する計画は現状ではない。ご不便をおかけすることになるが、生駒市が検討している構外の跨線橋を利用いただき、スロープで駅舎に入っていただくことになると考えている。

公募市民 畑氏

- ・ 了解した。

生駒市身体障害者福祉会 伊藤氏

- ・ 地下通路について、もし竜田川で洪水が発生し、地下通路に水が流れ込んだ場合、
どういう対策を考えているか。

事務局

- ・ 跨線橋整備を計画した経緯として、南生駒駅周辺が浸水想定区域であるため、現在の構外地下通路は安全性が担保されたものではないという判断がある。構内の地下通路については、近鉄にも意見を伺いたい、高さを上げる等の対策が可能であればお願いしたいと考えている。

近畿日本鉄道株式会社 阪中氏

- ・ 洪水対策については明確な対応を現状では考えられていない。しかしながら、雨水の流入については、止水板等で対応していく必要があると考えているので引き続き検討する。

生駒市身体障害者福祉会 伊藤氏

- ・ 洪水の対策として、例えば地下通路に扉を設置するという計画はないのか。

近畿日本鉄道株式会社 阪中氏

- ・ 止水板を設置する必要はあると考えているが、それで洪水等の河川の氾濫に対応できるか否かを明確に回答できないため、扉の設置に関する計画は現状ではない。

波床座長

- ・ 私見であるが、地下通路に雨水が入り込み、水浸しになる状況であれば、おそらく電車も止まっていると思うので、知らずに水で満たされた地下通路に足を踏み入れることはないかと考える。

(2) 跨線横断歩道橋の整備事業について

○事務局からの説明の概要

事務局

- ・ 昨年度開催した協議会で確認した案における跨線橋の整備位置では、駅舎のバリアフリー化事業が跨線橋整備より後の実施となることや、整備する跨線橋の階段の幅員確保、国道168号現道に対する影響等、諸々の課題があった。現在、こうした課題の解消や軽減に向けて、整備位置を現在の構外地下通路の位置とほぼ同じ位置で跨線する案について実現の可能性を探っている。
- ・ 仮にこの案が成立すると、施工手順は構外地下通路を廃止した後に跨線橋を整備することになるため、駅東西の地上部に改札口が跨線橋整備よりも先に整備されることが必須条件となる。前回の案は跨線橋を架設するヤードの関係から、跨線橋整備が完了してからの改札口の整備という流れであったため、検討中の案は前回の案よりも早期に駅舎のバリアフリー化を終えることができる。また、前回の案より幾分か用地を確保することが可能となるため、跨線橋の階段において幅員を確保することや国道168号現道に影響しない計画とすることが期待できる。

- ・ 課題としては、跨線橋整備が完了するまでの間、通学をはじめとする駅東西を横断する経路が南側の踏切まで遠回りをしなければならない経路となるため、長期間にわたって地元の皆様方にご不便をおかけすることとなる。
- ・ 工事中の仮設計画に関して課題はあるが、現在検討中の案が技術的に整備可能となった際、跨線橋が整備された後のことや前回案より早期に駅舎のバリアフリー化が実施されるため、有利であると考えている。工事中の駅東西の移動経路に関する仮設計画や安全対策について、工事の工程を鑑みつつ地元の皆様方が安全でかつ最も負担が軽減される手法を検討したいと思う。技術的に整備が可能か否か、現時点では担保がないため詳細な図面を示すことはできないが、今後、検証や関係機関との協議を行い、改めて整備方針を皆様と共有したいと考えている。

○説明に対する質疑応答

生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- ・ 工事中の東西間の移動については、構内の地下通路を使用することが大前提になるのではないかと。

事務局

- ・ 地下通路は近鉄の施設であるため、跨線橋整備が完了した後のことはわかりかねるが、跨線橋が整備されるまでの間については、これが使用できないと駅をご利用される方々にもご不便をおかけする期間が生じるので、市としては跨線橋整備が完了するまでの間に関しては、その機能を維持いただきたいと近鉄にお願いすることになる。詳細については今後検討していきたい。

生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- ・ 現行の地下通路の近くにある電気設備や架線柱は支障とならないのか。面的な部分はどう担保されているのか。

事務局

- ・ 今後、詳細設計のなかで明らかにしたい。この案を採用するか否かについては、測量等を行い、既存の施設との関係性や影響等を明らかにし、これまで検討してきた案と利便性や経済性等、様々な観点で比較をしたうえで整備方針を決めたいと考えているので、技術的な担保をとる検証についてお時間をいただきたい。

生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- ・ 案が二転三転し、整備時期が遅れることはないようお願いしたい。地元にとって待望の事業であるため重々お願いしたい。

奈良県道路マネジメント課 植谷氏

- ・ 前回の案に課題がありそうなので、北側にずらす案を検討中とのことだが、前回の案が廃案となった訳ではないのか。

事務局

- ・ 前回の案が廃案となった訳ではない。新たな案の検討に至った経緯として、前回の案には課題があり、その課題の解消または軽減を図ることができないものかと考えたところ。最終的な整備方針については、検証の材料が揃った段階で全ての項目に関して比較を行ったうえで決めていく。

奈良県道路マネジメント課 植谷氏

- ・ 現状の国道 168 号について、西側でバイパス整備が進んでいるため、南生駒駅西側の道路は旧道となる。道路への影響を危惧していると説明にあったが、当該区間においては既にバイパスもできているため、道路管理者である県に相談していただければ、道路（旧道）への影響に関しては協議ができるかと思うので、調整願いたい。

3. 協議事項

○校整備事業に併せた道路整備について

生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- ・ 生駒南小中学校整備事業の基本構想が策定され、事業を実施されるということだが、国道 308 号について、体育館までの区間を学校整備事業と併せてバリアフリー化をしていただきたい。現況は植垣が歩道にはみ出しており、歩きづらいと地元住民の方も言われている。ポールが道路上に設置されているが、傘をさして歩行するには車道側にはみ出してしまい、歩行困難であるため学校整備事業と併せて整備をお願いしたい。

事務局

- ・ 道路の対策については、学校の計画と併せてやっていくべきだと思うので、行政としてできる対策については、各事業者と協議のうえ検討していきたい。

生駒市教育こども部 鍬田

- ・ 生駒南小中学校整備事業の基本構想については、教育委員会で策定し、地元の皆様にお示ししたところである。これから基本設計や実施設計等、次の段階に進むことになるが、バリアフリーや子どもたちの学びということを考えれば、周辺の環境整備というのは当然すべきと思うので、地元の意見も聞きながら、地元の方や学校に通う子どもたち、皆様が使いやすい施設にしていきたい。

波床座長

- ・ 学校は子どもたちが通われるだけでなく、災害時の避難場所となるところでもあるため、整備をお願いしたい。

○東生駒駅、一分駅のバリアフリー化について

生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- ・ バリアフリー基本構想の期間が 2031 年までとなっており、必要に応じて中間見直しをすとなっている。現在、基本構想が策定されて 3 年が経過し、重点整備地区に指定された南生駒駅周辺の事業が進められているが、完成までに期間を要する事業もあり、長期では 10 年の期間を要することになっている。そのことを考えると、東生駒駅や一分駅についても重点整備地区の選定を行い、バリアフリーの推進を図るべきではないかと思う。南生駒駅周辺の特定事業計画を進めるなかではあるが、次の重点整備地区も選定をしていくのが良いと考えている。

生駒市建設部 米田

- ・ 現在、東生駒駅のバリアフリー化については、バスを降りてから駅舎に行くまでにエレベーターがないということが問題になっており、これに関しては近鉄と協議を重ね、ベストな方法を模索している。それ以外の駅についても、必要に応じて重点整備地区に設定して整備する手法も考えられるが、東生駒駅に関しては別の手法で進めることを検討している。

生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- ・ 優先順位の高い順に重点整備地区を設定することが基本構想策定時の考え方であったと思う。一分駅については乗降人員が 5,000 人を超えているもののバリアフリー化がなされていないため、重点整備地区に設定いただき、バリアフリー化を推進すべきだと考えている。

生駒市建設部 米田

- ・ 一分駅についても、既に近鉄の方でバリアフリー化に関して、手法や用地交渉等を進めていただいている。スロープの勾配がバリアフリーの基準を満たしていないということで、整備には用地の確保が必要になる。バリアフリー化が必要だということは近鉄も市も理解をしているが、相手があることなので目に見えた進捗がないという状況である。

4. 閉会

以上